

IV. 学生支援

1. 入学に関する支援

(1) 建学の精神・教育理念及び教育の目的・目標の明示

受験生が本学の基本理念である建学の精神、教育方針を十分理解し、かつ、入学者選抜方針及び多様な選抜方法を理解できるよう、以下の資料等を受験生及び高等学校に示すとともに、受験生専用ホームページに掲載している。

1) 「CAMPUS GUIDEBOOK」

受験生に対し、本学の教育理念・目的・目標を理解してもらうため刊行した（装丁は A4 判、38 頁）。2011 年度版には、新設の分野紹介及び本学の教育に関する取組みについての説明、学修分野及びユニット紹介、卒業後の進路及びキャンパスライフ等を掲載した。

2) 募集要項

本学入学者選抜方針及び多様な選抜方法を十分理解してもらうため刊行した（装丁は A4 判、44 頁）。下記の各入試に関して「入学試験概要」、「試験日程」、「選抜方法」、「出願資格」、「出願手続」、「出願書類」、「出願上の注意」、「可否発表」等を掲載した。

また、本学入学受入方針として募集要項の後半部分に「CORE」として掲載するようにした。

なお、付属推薦入学試験は学園内共通の募集要項として、法人で別に作成し配布している。

3) オープンキャンパス及び学校見学

受験希望者や関心のある生徒及び保護者や高校教員の参加を募り、本学において施設見学や学修分野の紹介、個別相談や在学生との交流などをおこなったオープンキャンパス（7 月：1 回、8 月：1 回、9 月：1 回）・学校見学会（11 月：1 回、12 月：2 回、1 月：1 回、2 月：1 回、3 月：2 回）を開催した。また、都合のつかない参加希望者には、随時学校見学を受け付けて対応している。

(2) 広報・入試事務

1) 入試広報業務

学生募集に関する広報業務の内、下記の業務については、全教職員で取り組んでいる。

- (a) 入学案内パンフレットの制作
- (b) ホームページの制作運営
- (c) 九州・沖縄地区の校内ガイダンス及び進学説明会への参加
- (d) オープンキャンパス・学校見学会の実施（年 10 回）
- (e) 学校見学の受入（年 1～2 校）
- (f) 高校訪問の実施（山口県、九州・沖縄地区 年 2～4 回）

また、事務室に広報・入試担当者を置き、本学独自のシステム（SRMS）を用いて資料請求者情報を管理し、受験生専用の Web ページ、問合せ窓口、フリーダイヤル及びメールアドレスを設置して、受験生からの問合せに対して敏速かつ適切に対応した。

2) 入試業務

本学では多様な選抜を公平かつ正確に実施するため、1990 年に入学者選抜関係規程を制定し、入学者選抜に関する必要事項（選抜方法、出願資格、出願書類等、選考基準、判定・手続・入学許可）を規定した。

また、入学試験に関する業務の組織的かつ合理的な運営を図るため、1997 年に入学試験運営組織及び業務分掌規程を制定し、学長の指揮監督の下に入試企画委員会、入試実施本部、入試審査採点委員会及び入試判定委員会を置いて適正に処置している。

3) 実施経過

日程

入試種別		出願期間(必着)		試験日	試験地	合格発表	入学手続期間(消印有効)
秋学期			6/30(木)～7/21(木)	7/23(土)	本学	7/27(水)	7/27(水)～8/3(水)
A O	第1回		10/6(木)～10/20(木)	-	-	10/26(水)	10/26(水)～11/2(水)
	第2回		10/21(金)～11/10(木)			11/16(水)	11/16(水)～11/24(木)
	第3回		11/17(木)～12/8(木)			12/14(水)	12/14(水)～12/21(水)
	第4回		1/10(火)～1/26(木)			2/1(水)	2/1(水)～2/8(水)
	第5回		2/2(木)～2/23(木)			2/29(水)	2/29(水)～3/7(水)
	第6回		2/24(金)～3/15(木)			3/21(水)	3/21(水)～3/29(木)
	第7回		3/16(金)～3/22(木)			3/24(土)	3/24(土)～3/29(木)
給付奨学金		A日程	10/21(金)～11/10(木)	11/12(土)	本学	11/16(水)	11/16(水)～11/24(木)
		B日程	1/10(火)～1/26(木)	1/28(土)		2/1(水)	2/1(水)～2/8(水)
		C日程	2/24(金)～3/15(木)	3/17(土)		3/21(水)	3/21(水)～3/29(木)
推薦	指定校推薦 公募制推薦	A日程	10/21(金)～11/10(木)	11/12(土)		11/16(水)	11/16(水)～11/24(木)
		B日程	11/17(木)～12/8(木)	12/10(土)		12/14(水)	12/14(水)～12/21(水)
	公募制推薦	C日程	1/10(火)～1/26(木)	1/28(土)		2/1(水)	2/1(水)～2/8(水)
		D日程	2/2(木)～2/23(木)	2/25(土)		2/29(水)	2/29(水)～3/7(水)
一般		A日程	1/10(火)～1/26(木)	1/28(土)		2/1(水)	2/1(水)～2/8(水)
		B日程	2/24(金)～3/15(木)	3/17(土)		3/21(水)	3/21(水)～3/29(木)
社会人 帰国子女 留学生		A日程	10/21(金)～11/10(木)	11/12(土)		11/16(水)	11/16(水)～11/24(木)
		B日程	11/17(木)～12/8(木)	12/10(土)		12/14(水)	12/14(水)～12/21(水)
		C日程	1/10(火)～1/26(木)	1/28(土)		2/1(水)	2/1(水)～2/8(水)
		D日程	2/2(木)～2/23(木)	2/25(土)		2/29(水)	2/29(水)～3/7(水)
		E日程	2/24(金)～3/15(木)	3/17(土)	3/21(水)	3/21(水)～3/29(木)	

4) 選抜方法

a. A0 入学試験

高等学校もしくは中等教育学校を卒業の者及び2011年3月高等学校卒業見込みの者で、予備面談を受け具体的な説明を聞き、教育内容を理解した上でエントリーシートを提出させた。本学教員との具体的な面談を通じて本学進学の目的を確認しあい、その後書類審査を課した。

b. 給付奨学金入学試験

経済援助の目的とともに、優秀な人材を募り、本学の建学の理想を未来へ継承・発展させていく人材の育成を図ることを目的として2005年度入試より新設した。また、従来実施している学科試験に2011年度入試から面接試験を追加した。

<試験科目及び時間>

A 日程	※ 学科試験 10:00～11:00(60分) 国語・数学・英語から1科目選択
B 日程	国語：国語総合(古文・漢文を除く) 数学：数学Ⅰ及び数学A
C 日程	英語：英語Ⅰ ※ 面接試験 11:00～

c. 指定校推薦入学試験

本学が指定した高等学校を2012年3月卒業見込みの者で、本学が設置する学科を第一志望とし、学力・人物ともに優れ、学校長が推薦する者を対象に、本学所定の推薦書・調査書による書類審査、および

び面接を課した。

d. 公募制推薦入学試験

2011年3月高等学校卒業の者および2011年3月高等学校卒業見込みの者で、本学が設置する学科を第一志望とし、学力・人物ともに優れ、学校長が推薦する者を対象に、本学所定の推薦書・調査書による書類審査、および面接を課した。

e. 付属推薦入学試験

東海大学が設置する付属高等学校の最終学年に在学し、本学が設置する学科を第一志望とし、学校長の推薦を受けた者を対象に、書類審査を課した。

f. 一般入学試験

大学入試を志望できる者で本学に入学を志望した者に、以下の内容で試験を実施した。

なお、面接試験は、2011年度入試から追加した。

<試験科目及び時間>

A 日程	※ 学科試験 10:00 ~ 11:00 (60分) 国語・数学・英語から1科目選択
B 日程	国語：国語総合（古文・漢文を除く） 数学：数学Ⅰ及び数学A
C 日程	英語：英語Ⅰ ※ 面接試験 11:00～

g. 社会人入学試験

東海大学の「建学の精神」、「教育方針」を理解し、本学入学を第一志望とする者で、出願資格を満たした者に対し、調査書等による書類審査および面接を課した。

h. 帰国子女入学試験

東海大学の「建学の精神」、「教育方針」を理解し、本学入学を第一志望とする者で、出願資格を満たした者に対し、書類審査・日本語による作文および面接を課した。

i. 留学生入学試験

東海大学の「建学の精神」、「教育方針」を理解し、本学入学を第一志望とする者で、外国において、通常の課程による12年の学校を修了した者、またはこれと同等以上の学力があると本学が認めた者に対し、書類審査、日本語による作文（60分間600字以内）、および日本語による面接を課した。

5) 入試結果

()内は男子学生

学 科	志願者	受験者	合格者	入学手続き者
情報処理学科	20 (8)	20 (8)	20 (8)	20 (8)
国際文化学科	59 (16)	57 (16)	57 (16)	54 (16)
合 計	79 (24)	77 (24)	77 (24)	74 (24)

(3) 入学手続き者への対応

入学手続き者が入学するまでの間と入学後のいろいろな問題や不安を解決する為、「入学生の皆さんへ」を発行した。また、学科での勉学の動機付けと学修意欲の高揚をはかることを目的として事前学習課題の提出を課した。

1) 「入学生の皆さんへ」の発行

入学手続き者が入学するまでの間に、2回（12月号、2月号）発行し、各家庭に郵送している。

a. 2011年度12月号

12月号においては、1年間のキャンパスライフについて下記の通り紹介し、感想や質問のアンケートを同封した。

- 学長からのメッセージ
- 年間スケジュール
- 主なイベント（入学式・新入生オリエンテーションキャンプ・新入生ハワイ集中講義・学園三短期大学スポーツ大会・建学祭・卒業式）
- 在学生メッセージ（編入学・就職・資格取得・留学等）
- 学生支援（各種奨学金）
- クラブ紹介

b. 2011年度2月号

2月号は前号（12月号）の感想や質問に対する回答を踏まえ、Q&A形式で下記の通り紹介した。

- 学科からのメッセージ
- 入学式のご案内
- 課外活動について
- 入学後のQ&A、学修関連Q&A、資格関連Q&A、進路関連Q&A
- 通学について
- 事務室からのお知らせ

2) その他

上記のほか、入学手続き者に対しては以下の支援活動を実施している。

- 入学式案内（オリエンテーションウィークの日程を含む）
- 事前アンケートおよび調査案内
- 学生総合補償保険の案内

（4）入試業務の的確性と現状評価について

短大の入試は、2000年度を境にして「選抜する入試」から「入学させる入試」へ入試傾向が変わり、本学も学科試験で能力を測る入試から入学目的を問う推薦試験やA0入試に軸を移して入学者確保を図るようになってきている。さらに昨年度より、目的意識や勉強意欲を評価するため、一般入試、給付奨学金入試において面接試験を追加した。

次年度以降はこうした自由度を徐々に廃して、引き続き目的意識の高い学生を入学させることを目標に入試制度を整える必要がある。

2. ガイダンス・オリエンテーション

（1）入学者に対する学習・学生生活のためのオリエンテーション

入学後の学修や学生生活のためのオリエンテーションは下記の通り、5日間をかけて実施した。全体ガイダンスでは学長訓示に始まり、進路・教学関係指導を行った。「教学ガイダンス・事務連絡」では、学生生活に関する不安を取り除くため、教務・学生・健康管理・メディア情報センターの担当者がガイダンスを行った。また、「学科別ガイダンス」では、学科の特色について説明し、個別面談を通し

て各個人の状況を把握した。翌日ゼミに分かれてゼミの目標等の指導を行い、翌々日に履修についての指導を行った。「コンピュータ利用ガイダンス」では、円滑な学生生活が送れるようにコンピュータ実習室での ID 管理やメール使用方法、Web 掲示板の閲覧方法などの指導を行った。新入生が学内で迷うことがないように、「キャンパスツアー」を初めて設けた。本学の奨学金についても説明会を実施し、宗像警察署交通課の警察官を講師として「防犯および安全運転講習会」を実施した。本学のカリキュラムの要ともなる「現代文明論」についても授業開始前のガイダンスを実施した。

2年間という限られた期間に培われる人間関係は、短大教育の可能性を広げる欠かせない要因となっている。更に、出会いの重要性を鑑みると、学科やゼミを超えた仲間作りが幅広い人間形成に役立つと考えられる。このことから、時間と空間を共有し、良好な人間関係の構築を目的とし、以前までオリエンテーションキャンプとして学外で実施していたものを「TOKAI グランプリ」として本学コモンホールアリーナを使用して行った。なお、学友会・有志会から選抜した在学生も参加している。

	午前	午後
4月4日 (月)	<ul style="list-style-type: none"> ○全体ガイダンス 9:00～9:30 2502 教室 ○教学ガイダンス・事務連絡 9:40～11:10 2502 教室 ○カウンセリングガイダンス 11:30～12:00 2502 教室 	<ul style="list-style-type: none"> ○学科別ガイダンス 13:00～14:20 情報：2501 教室 国際：ゼミ室2・3 ○奨学金説明会 14:30～15:00 2502 教室 ○留学生特別指導 15:10～15:40 1307 教室
4月5日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ○ゼミ別ガイダンス 9:00～10:15 各室 ○基礎学力試験 10:30～12:00 2502 教室 	情報 <ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータ利用ガイダンス 13:00～14:30 コンピュータ実習室 ○キャンパスツアー 14:45～16:15 ゼミ室集合→移動
		国際 <ul style="list-style-type: none"> ○キャンパスツアー 13:00～14:30 ゼミ室集合→移動 ○コンピュータ利用ガイダンス 14:45～16:15 コンピュータ実習室
4月6日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ○ゼミ別履修指導 9:00～10:15 各室 ○現代文明論ガイダンス 10:30～12:00 2502 教室 	<ul style="list-style-type: none"> ○防犯および安全運転講習会 13:00～14:30 2502 教室
4月7日 (木)		<ul style="list-style-type: none"> ○健康診断 13:00～16:00 3号館2階
4月8日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ○TOKAI グランプリ 9:00～16:00 《本学：コモンホールアリーナ》 	

(2) 在学生に対する定期的なガイダンス

1) 春学期ガイダンス

4月4日(月)～8日(金)まで実施。全学生に対し、全体ガイダンス・教学ガイダンス・事務連絡・学科別ガイダンス談・留学生特別指導・基礎学力試験・ゼミ別ガイダンス・導入授業・進路ガイダンス・奨学金説明会・ゼミ別履修指導・防犯および安全運転講習会・現代文明論ガイダンス・キャンパスツアーを実施。

2) 秋学期ガイダンス

9月22日(木)に実施。春学期同様全学生に対し、全体ガイダンス、学科別・ゼミ別ガイダンス・ゼミ別履修指導・事務連絡・安全運転講習会を実施し、避難訓練を行った。

3. 学生生活支援体制

学生生活を有意義で充実させるために東海大学福岡短期大学では、学生生活に対応した組織が整備されている。事務室が学生生活全般に関する相談をはじめ、学生に対する各種サービスの窓口となっている他、1年次からのゼミ制と指導教員制度を導入していることにより、学修上の問題や学生生活が円滑に営まれるよう生活全般にわたってきめ細かな指導と助言を行っている。また、健康推進室には保健師を、学生相談室には専門のカウンセラーを配置し、心身共にケアが行えるよう配慮している。

課外活動においては、学生の自主的な組織として、自治会活動を行う『学友会』、またスポーツや文化芸術を通じて心身の錬磨に努め活動する『有志会』があり、自主的な活動を行っている。

(1) 学生生活

1) 各学生団体主催行事

a. オリエンテーション時新入生歓迎行事

TOKAI グランプリで新入生に対し、学友会活動の年間行事詳細、クラブ紹介、クラブの代表によるパフォーマンスを行った。

- (a) 日 時 4月8日(金)
- (b) 場 所 東海大学福岡短期大学 福岡コモンホール
- (c) 参加者 151名(新入生87名・在学生33名・教職員31名)
- (d) 内 容 年間学友会主催行事説明、クラブ紹介、有志によるパフォーマンスなど

b. スポーツ大会(ボーリング)

学友会執行委員会主催により下記内容で実施された。

- (a) 日 時 6月1日(水)
- (b) 場 所 折尾スターレーン(北九州市八幡西区)
- (c) 参加者 72名(学生67名・教職員5名)
- (d) 内 容 2ゲームマッチ(個人、団体)

c. 第22回建学祭

- (a) 期 間 11月2日(水)～11月3日(木・祝)
(11月1日:準備、11月4日:後片付け)
- (b) テーマ 『主役はキミだ!』
- (c) 実行委員会 実行委員長 笹渕 翔吾(国際文化学科2年)

(1) 実行委員長		笹渕 翔吾	(B0IC1052)
(2) 副委員長	編集・看板 担当	窪田 将也	(B0IM1035)
	渉外・会計 担当	鬼塚 慧	(B1IM1010)
	企画 担当	安井 康祐	(B0IC1058)
(3) 委員	編集・看板 担当	松元 真一	(B0IM1036)
	渉外・会計 担当	中村 静	(B0IM1017)
	渉外・会計 担当	高村 幸輔	(B1IM1038)
	渉外・会計 担当	善家 かよ	(B1IC1045)
	企画 担当	中村 拓哉	(B0IC1029)

企画 担当	小畑 央	(B0IC1011)
企画 担当	道畑 悠人	(B0IC1065)
企画 担当	澤田 美和	(B1IC1014)
企画 担当	城戸 ひかり	(B1IC1009)

(d) 内容：日程・ステージ企画

11月2日 (水)	13:00～	開祭式
	13:30～	国際文化 vs 情報処理 (1年生)
	14:15～	メッセージコンテスト (投稿作品紹介)
	14:30～	国際文化 vs 情報処理 (2年生)
		ミニッツムービーコンテスト
		研究発表 (ゼミ、授業など)
	15:00～	短大総選挙
	15:30～	Live
11月3日 (木・祝)	16:30～	韓国語スピーチコンテスト
	18:00～	SHOW CASE (ダンス)
	10:00～	建学記念式典
	11:30～	模擬店宣伝タイム
	11:45～	空手演武
	12:30～	ちびっこ〇×クイズ
	13:00～	特別ゲスト バルーンアーティスト JOU
	14:00～	韓国演舞
	15:00～	フレアバーテン
	15:30～	Live
	16:30～	エイサー
17:00～	大抽選会	
17:45～	SHOW CASE	
18:45～	閉祭式	
	閉祭式終了後、「花火」打ち上げ	

(e) 研究発表・展示・模擬店

展示等：【3号館企画】

- ・短期大学コンソーシアム九州 (連携GP)
- ・韓国文化研究会展示
- ・マーケティング調査発表
- ・エコツーリズム研究発表
- ・竹灯籠展示
- ・コンピュータネットワーク部作品紹介
- ・メッセージコンテスト投稿作品展示

【2号館3階企画】

- ・映画サークルリュミエール

模擬店：クラブ・有志・外部団体より17団体が出店

d. リーダース研修会

- (a) 日 時 2012年3月5日(月)～7日(水)
- (b) 場 所 東海大学福岡短期大学 学内
- (c) 参加者 28名(学生18名、教職員10名)
- (d) スケジュール

<研修1日目 3月5日(月)> 司会進行 鬼塚学友会執行委員長・石崎有志会常任委員長

時間	企画内容	担当者	場所
9:00	集合・諸連絡	司会、香月	短大、ゼミ室2・3
9:10	開会式(建学の歌、開会挨拶、校歌斉唱)	司会、矢原	ゼミ室2・3
9:30	研修会趣旨、スケジュールについて	司会、矢原、香月	
10:00	研修1 学長講話:マネジメントの可能性と必要性	司会、西野学長	
11:15	研修2 自己紹介(1分間スピーチ)	司会	
11:45	昼食	全員	3号館食堂
12:45	研修3 初年次教育とその理念	司会、神山、真下	ゼミ室2・3
14:00	研修4 学生組織と団体理解(会則、書類、予算など) 年間行事について	司会、北濱、香月、福田	
16:00	研修5 マネジメント能力の開発(プランニング)	司会、北濱	
17:00	諸連絡・解散	全員	ゼミ室2・3、短大

<研修2日目 3月6日(火)>

時間	企画内容	担当者	場所
9:00	集合・諸連絡	司会、香月	ゼミ室2・3
9:10	研修6 マネジメント能力の開発 (リーダーシップとコミュニケーション)	司会、北濱	
12:00	昼食(野外調理)	全員	3号館周辺
13:30	研修7 マネジメント能力の開発(IT活用)	司会、矢原、宮川	ゼミ室2・3
15:00	研修8 TOKAIグランプリに向けてI (概要説明、学友会・有志会紹介など)	司会、矢原、宮川、北濱	
18:00	夕食・入浴	全員	3号館食堂、コモンホール
19:45	研修9 TOKAIグランプリに向けてII	司会、矢原、宮川、北濱	3号館2階
21:30	自由時間(研修10準備)・就寝	全員	女子3号館1階 男子3号館2階

<研修3日目 3月7日(水)>

時間	企画内容	担当者	場所
6:30	起床・朝食(7:00~)・宿泊場所掃除他	全員	3号館、3号館食堂
7:45	赤間駅へ(通学路及び福岡キャンパス清掃)	香月、福田、北濱	駅周辺及び福岡キャンパス内
9:30	集合・諸連絡	司会、香月	ゼミ室2・3
9:40	研修10 TOKAIグランプリに向けてIII	司会、矢原、宮川、北濱	ゼミ室2・3、コモンホール
12:00	昼食	全員	3号館食堂
13:00	研修11 年間目標・プラン発表準備	司会、宮川、北濱	ゼミ室2・3、コモンホール
14:30	研修12 年間プランニング発表	司会、矢原	ゼミ室2・3
15:30	研修13 研修の感想(1分間スピーチ)、まとめ	司会、北濱	
16:30	閉会式(建学の歌、閉会挨拶、校歌斉唱)	司会、矢原、西野学長	
17:00	解散	司会、全員	ゼミ室2・3、短大

2) 法人主催の学生行事

a. 第24回東海大学短期大学(部)スポーツ大会

- (a) 主催 学校法人東海大学
 (b) 目的 「建学の精神」に則り、各短大の代表される学生が一致団結して、スポーツを通じて学生相互の交流・親睦と技術向上を図り、学園の発展に自らが歴史を作る一員であることの意義を学ぶことを目的とする。
 (c) 実施日時 9月1日(木)
 (d) 成績 総合 2位

第25回 東海大学短期大学(部) スポーツ大会 結果

実施日:2011年9月1日(木)

場 所:東海大学湘南校舎

対 抗 別	種 目	男女別	静岡短大		福岡短大		医療短大	
			順位	得点	順位	得点	順位	得点
クラブ対抗の部	バレーボール	女子	1	6	不出場	3	2	3
	バスケットボール	混合	3	1	2	3	1	6
	バドミントン	女子	3	1	1	6	2	3
	硬式テニス	女子	2	3	1	6	不出場	3
	フットサル	男子	2	3	1	6	3	1
		女子	1	6	不出場	3	2	3
ソフトボール	女子	1	6	不出場	3	2	3	
クラブ対抗得点 3校舎出場競技:1位…6点 2位…3点 3位…1点 2校舎出場競技:1位…6点 2位…3点 不出場…3点			2	26	1	30	3	22
校舎対抗の部	メディシンボール	混合	2	8	1	12	3	5
	大縄跳び	混合	1	12	3	5	2	8
	綱引き	混合	1	12	2	8	2	5
校舎対抗得点 1位…12点 2位…8点 3位…5点			1	32	2	25	3	18
総合得点			1	58	2	55	3	40

- (e) 実施場所 東海大学湘南校舎
 (f) 引率者 1. 北濱 幹士 (大会実行委員)
 2. 井関 明宏 (総務責任者・事務室長)
 3. 森田 博文 (事務室長補佐)
 4. 福田 伸也 (事務室学生担当)
 (g) 競技名及び学生参加者氏名 (数字の「*」は各種目の責任者)

1) バスケットボール (混合)・校舎対抗 (9名)

1*	中村 静	B0IM1017	6	前田 恵里	B1IM1026
2*	大中 龍	B0IC1006	7	松本 真依	B1IM1027
3	鳩間 光	B0IM1019	8	清家 大知	B1IM1017
4	萩原 優理	B1IC1024	9	高村 幸輔	B1IM1038
5	石崎 栞	B1IM1002			

2) バドミントン (女子)・校舎対抗 (5名)

1*	大羽 麻季	B0IM1029	4	鍋島 李枝	B1IC1023
2	嘉福 亜希美	B1IC1007	5	緒方 祐里菜	B1IM1009
3	高波 里穂	B1IC1017			

3) 硬式テニス (女子)・校舎対抗 (6名)

1*	笹渕 翔吾	B0IC1052	4	福元 菜央	B0IM1022
2	清水 皓平	B0IC1061	5	力丸 彩	B0IM1027
3	丸田 朋子	B0IC1039	6	渡司 由佳	B0IM1028

4) フットサル (男子)・校舎対抗 (6名)

1*	福崎 慧	B0IC1033	4	奥村 俊伎	B0IM1033
2	安井 康祐	B0IC1058	5	柿内 浩史	B1IM1012
3	西川 敬太	B0IC1063	6	内間 直人	B1IM1006

(h) 参加日程

【8月31日(水)】

- 7:15 福岡空港国内線第2ターミナル1階 日本航空団体カウンター前集合
- 8:15~9:55 JAL304便にて東京羽田空港へ移動
- 10:15~12:00 東海大学貸切バスにて湘南キャンパスへ移動
- 12:00~12:30 湘南キャンパス到着、昼食(コムスクエア2階食堂)
- 12:30~12:50 宿泊所:6号館(荷物を置く)
→医療短大へ移動
- 13:00~15:30 競技準備
引率者及び参加学生全員、医療短大で準備打合せ後、準備開始(p.15参照)
- 15:30~17:30 クラブ毎に会場チェック及びミーティング
- 17:30~18:00 夕食(コムスクエア2階食堂)
※学友会役員及び各クラブ代表者は松前会館にて各校舎学生との懇親会
- 18:00~22:00 休憩およびシャワー(総合体育館)
- 22:00 消灯

【9月1日(木)】

- 6:30 起床及び支度(着替えは済ませる)
- 7:10 6号館前集合、食堂まで移動
- 7:30~8:00 朝食(コムスクエア2階食堂)
- 8:00~8:10 移動
- 8:10~9:30 体育館集合、ミーティング、競技準備
- 9:30~9:50 開会式
- 10:00~13:45 クラブ対抗競技
- 14:00~15:30 校舎対抗競技
- 15:30~16:00 競技終了後、会場片付け
- 16:00~16:30 閉会式・表彰式
- 16:30~18:00 休憩及びシャワー(総合体育館)
- 18:00~19:00 福岡短大懇親会(コムスクエア2階別室)
- 19:00~22:00 宿泊所へ、休憩・ミーティング
- 22:00 消灯

【9月2日(金)】

- 6:30~7:10 起床及び支度
- 7:10~7:30 全体清掃
- 7:30~8:00 朝食(コムスクエア2階食堂)
- 8:30~15:30 6号館前集合し一時解散、自由行動
引率者(湘南キャンパス出発 → 東海大学前駅へ)
東海大学前 → (小田急線) → 海老名 → (相鉄線) → 横浜
- 15:30 羽田空港第一ターミナル2階日本航空団体カウンター前集合
- 16:30~18:15 JAL323便にて福岡へ

6. 宿泊先

東海大学湘南キャンパス 6号館（学生及び教職員一部）
 東海大学松前会館（教職員）
 [住所]〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 1117
 [電話]0463-58-1211（代表）

（2）学友会

大学生活では、正課の授業の他に課外活動を行う組織を「学友会」と称し、全学生が参加して行う自治活動と有志が集まって行うサークル活動とがあり、学生自身が積極的に参加し自主的に活動運営されている。先に記載した学生団体主催行事はこの学友会を中心として運営された。

1) 自治組織**a. 学友会の機構**

- (a) 学生総会
- (b) 代議委員会（クラス・有志代表）
- (c) 学友会
 - a) 執行委員会
 - b) 監査委員会
 - c) 有志会（体育系クラブ・文化系クラブ）
- (d) 臨時委員会
 - a) 建学祭実行委員会
 - b) 卒業記念行事委員会
 - c) 選挙管理委員会

b. 学友会役員

学友会役員選挙が下記の日程で実施された。

- (a) 投票日 11月22日（火）・24日（木）・25日（金）
- (b) 選挙管理員長 大羽 麻季
- (c) 選挙結果 11月18日（金）公示
 在籍者数 180名 投票者数 70名 有効投票数（最大）69票
 投票率 38.9%

I. 執行委員長（定数1名）

信任	氏名	学生証番号	有効票	信任	不信任	無効票
信任	鬼塚 慧	B1IM1010	69	66	3	1

II. 執行委員（定数2名）

信任	氏名	学生証番号	有効票	信任	不信任	無効票
信任	池邊 愛里	B1IC1002	69	69	0	1
信任	萩原 優理	B1IC1024	69	59	10	1

III. 監査委員（定数2名）

信任	氏名	学生証番号	有効票	信任	不信任	無効票
信任	杉 真佑美	B1IM1016	69	67	2	1
信任	高村 幸輔	B1IM1038	69	62	7	1

c. 学生団体（有志会）

2011年度有志会所属団体一覧

<体育系>

	団体名	種別	担当教員	学生責任者	学生証番号	常任委員会 ◎は委員長 ●は委員	1年男	1年女	2年男	2年女	合計
1	テニス	継続	香月 康則	笹淵 翔吾	B0IC1052		0	0	2	8	10
2	サッカー	継続	山本 真由美	福崎 慧	B0IC1033		2	1	6	0	9
3	バスケットボール	継続	北濱 幹士	大中 龍	B0IC1006		2	0	1	0	3
				中村 静	B0IM1017	●	0	4	0	8	12
4	バドミントン	継続	宮川 幹平	大羽 麻季	B0IM1029	◎	3	5	0	17	25
5	野球	継続	矢原 充敏	竹山 瑞	B0IM1010		3	0	7	2	12
6	バレーボール	継続	森田 博文	沖中 美咲	B0IC1008		0	0	1	11	12
7	ストリートダンス	継続	徳永 克美	大谷 麻美子	B0IC1004		0	0	1	6	7
8	水泳競技	休部					0	0	0	0	0
体育系合計							7	10	18	52	90

<文化系>

	団体名	種別	担当教員	学生責任者	学生証番号	常任委員会 ◎は委員長 ●は委員	1年男	1年女	2年男	2年女	合計
1	音楽	継続	神山 高行	奥村 俊伎	B0IM1033	●	1	3	6	3	13
2	デジタル・メディア	継続	八尋 剛規	重信 有花	B0IM1008		1	3	1	2	7
3	映画研究会リミール	継続	真下 仁	水野 千代実	B0IC1041		0	0	1	16	17
4	沖縄県人会	継続	大方 優子	鳩間 光	B0IM1019		2	4	3	12	21
5	中国文化研究会	継続	チョウ・アンナ	水野 桜子	B0IC1040		3	2	0	9	14
6	韓国文化研究会	新規予定	大方 優子	緒方 美咲	B0IC1007		1	6	0	5	12
7	ESS	休部					0	0	0	0	0
文科系合計							6	18	11	47	84

(3) 奨学・援護

1) 奨学金

本学では、経済的な援助を必要とする学生のために、本学独自の奨学金（給付）・学園独自の奨学金（給付）日本育英会奨学金及び地方公共団体等によるものを取り扱っている

【奨学金一覧】

名称	内容	採用条件
東海大学福岡短期大学 遠隔地奨学金（給付）	12万円（年額） 各学年で10名以内	修学意欲旺盛な学生で沖縄県、離島出身者に奨学金の給付を行う。
東海大学福岡短期大学 学習奨励奨学金（給付）	21万円（入学時） 20名以内	給付奨学金入学試験に合格し、入学した者のうち成績、人物共に優れ、健康な者に奨学金の給付を行う。
東海大学福岡短期大学 資格取得奨励奨学金 （給付） -2008年度より-	第1種 5万円 第2種 3万円 第3種 1万円 若干名	在学中に資格取得及び検定試験に合格し、顕著な実績を収めた者に奨学金の給付を行う。
松前重義記念基金 建学記念論文（給付）	最優秀賞：20万円 優 秀賞：10万円 入 選： 5万円 若干名	建学の精神を未来へ継承発展させていくための人材育成をはかるもので、優秀な論文を書いた者に奨学金の給付を行う。
松前重義記念基金 自己研鑽奨学金（給付）	個人：30万円 団体：10万円～50万円 若干名	文化活動・スポーツ活動・社会活動・ボランティア活動その他の自己研鑽活動をしている個人または2名以上のグループに奨学金の給付を行う。
松前重義記念基金 留学生奨学金（給付）	授業料の70% 若干名	人物、学業成績共に優秀な外国籍の私費留学生に奨学金を給付。
松前重義記念基金 短期大学（部）派遣留学	短期留学：2万円 長期留学：6万円	教育による人材育成と相互理解を促進するために本学園と国際交流

生奨学金（給付）		協定を締結している教育機関へ派遣を行う者。
日本学生支援機構奨学金 （貸与）	第1種（無利子） 自宅：53,000円、自宅外：60,000円 第2種（有利子） 3万円、5万円、8万円、10万円を選択できる	第1種：評定平均値3.5以上 第2種：評定平均値平均水準以上 学業・人物共に優れかつ健康であって、経済的理由により就学が困難であると認められる者を推薦し、貸与される。
地方公共団体奨学金	給付・貸与金額等は団体によって異なる	地方公共団体等で設けている制度に準じて採用される。

【採用状況一覧】

名称	内容	採用者合計人数
東海大学福岡短期大学 遠隔地奨学金（給付）	[2年生] 情報処理学科 3名 国際文化学科 2名	8名
	[1年生] 情報処理学科 1名 国際文化学科 2名	
東海大学福岡短期大学 学習奨励奨学金（給付）	[1年生] 情報処理学科 6名 国際文化学科 4名	10名
東海大学福岡短期大学 資格取得奨励奨学金（給付）	[2年生のみ] 【第1種】 情報処理学科 1名 【第2種】 該当者なし 【第3種】 情報処理学科 6名 国際文化学科 1名	8名
松前重義記念基金 留学生奨学金（給付）	[1年生] 国際文化学科 3名 情報処理学科 1名	4名 (秋学期入学生1名受給中)
私費外国人留学生学習奨励費	[2年生] 国際文化学科 1名	1名
福岡市レインボー留学生奨学金	[1年生] 国際文化学科 1名	1名
日本学生支援機構奨学金（貸与）	定期採用 [2年生] [1年生] 第1種 0名 4名 第2種 1名 7名 予約採用者：第1種2名 第2種23名 次回以降採用者：該当者なし 臨時採用者：該当者なし	12名 内示数：第1種7名 第2種11名 (定期採用申請者のみ)

2) アルバイト

アルバイトの斡旋については、1)授業に支障をきたさない、2)危険性を伴わない、3)学生にふさわしい職種であることを条件として、企業から事務室に情報を提供していただき、学生ラウンジの掲示板で公開している。また、特に経済的に困難でアルバイトをしなければ学業を続けられないという学生には個別に相談にのっている。

3) 学割発行状況

発行状況を見るとやはり長期休暇前の発行が多く、特に帰省、見学旅行、就職等に利用されている。発行状況は下記の通り。

項目 月	帰省	正課教育	課外教育	就職	見学旅行	その他	廃止	小計
4月	2				1			3
5月	4			1	2			7
6月	7			2				9
7月	4			3				7
8月	5							5
9月								0
10月								0
11月								0
12月	8							8
1月	2							2
2月	9			3	2			14
3月	2			2	3			7
合計	43	0	0	11	8	0	0	62

(4) 福利・厚生

1) 学生教育研究災害障害保険（財団法人 日本国際教育支援協会）

保険金が支払われる事故の範囲は、被保険者が在籍する本学の教育研究活動中に被った急激かつ偶然な外来の傷害。なお教育研究活動とは以下に定義される。

- (a) 正課を受けている間
- (b) 学校行事に参加している間
- (c) (a), (b)以外で学校施設内にいる間
- (d) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間（病気はこの対象とならない。）

2) 学生総合保障制度

この制度は、任意加入の保険制度で、入学試験の申請書類に同封し案内している。学生自身が災害を被った時、あるいは不注意により他人の身体や財物を害した場合などの加害事故を起こした時に、学生を救済する制度である。正課中はもちろんスポーツ中・課外活動・通学途中・アルバイト中など1日24時間補償するものである。

3) 学内環境

a. 食堂

学内には3号館1階に食堂があり、「体にやさしい食を考える会（有償ボランティア）」に営業していただいております。身体に優しく栄養価の高いものを提供しています。安価で栄養のバランスが取れているため利用者も多い。メニューは日替わり定食、日替わり丼、カレーライス、中華麺などが中心で、平日の11時50分から12時40分まで営業しています。食事スペースはもちろん、談話スペースとしても利用されています。

b. 体育館

本学体育館は福岡コモンホールと呼ばれ、1998年に建築された。2階は850平米のアリーナ、3階にはフィットネスルームがあり、16種類のマルチトレーニングマシンなどを設置している。利用には体育教員による講習会の受講が必要で、授業の合間や放課後の体力づくりに寄与している。

4) 居住環境

本学は、寮を完備していないため、在籍者の3分の1強（約60名程度）が大学周辺等のアパートを借りて学生生活をしている。最近では、入学者の減少によりアパートに住む学生数も減ってきているが、

アパートの設備については、エアコンはもちろん家具付きに入居が集中するようになった。

紹介方法は、宗像に拠点を持つ不動産屋や家主さんから提出されたアパート台帳を冊子にして、入学手続者の中で県外出身者に対してその冊子を郵送し、直接契約していただいている。また、本学に来校し状況を聞いた上で不動産屋等と交渉する場合もある。

(5) 交通問題

学生の車に対する意識・感覚の変化とともに、運転免許の保有者も増大した。現代社会では、車なしの生活は考えられない社会状況になっている。また、飯塚・直方・鞍手方面から通学している学生は、自家用車で通学の方が通学時間の短縮にもなる。

こうした社会的背景を受けて学生の通学形態も大きく変化し、車両通学を希望する学生が急増している。こうした状況を鑑み、本学では1997年9月から、車両通学許可に踏み切った。但し、その許可条件には本学が学期毎に開催する交通安全講習会の受講を義務づけるなどの規程が盛り込まれている。今後は、この許可制度がしっかりと機能するよう学内における啓蒙活動、指導が大切といえる。

また、本学の通学路には長い上り坂があり、学生アンケートで毎年シャトルバス運行の要望が多い為、後援会からの予算で2003年度から最寄りのJR赤間駅と本学までシャトルバスを3往路、2復路を運行している。

2011年度 車両通学許可件数

学期	四輪	二輪
春学期	18台	2台
秋学期	19台	1台

※学内駐車場利用料金：四輪500円／半期、二輪500円／2年間

(6) 証明書発行状況

各種証明書の発行状況は下記の通り。

証明書名	発行枚数
在学証明書	49
成績証明書	303
卒業見込証明書	210
卒業証明書	179
学生証再発行	2
その他	17
計	760

(7) 健康推進室

1) 概要

健康推進室は、保健管理に関する専門的な業務を行い、学生および教職員の健康の保持・増進を図ることを目的とした施設として設置されている。

構成員は、室長（事務室長・兼務）、健康推進室は保健管理医（内科医・非常勤）1名、保健技術職員（専任）1名、学生相談室はカウンセラー（非常勤）1名である。

室長は両室の管理、調整に当たっている。保健管理医は月に1回来室し、健康診断、健康相談、その他保健管理業務を行っている。また、カウンセラーは週1回来室し相談業務を行っている。

2) 活動状況

年間の主要業務としては、学生・教職員の定期健康診断や健康診断再検査及び事後措置、入試等の救護を行っている。日常業務としては、応急処置、健康相談、保健指導、健康診断証明書の発行等を行っている。その他、保健管理医による健康相談を月に1回実施している。

その他、広報・啓蒙活動として保健関連書籍の貸し出し・保健ニュース等の掲示を行っている。

2011年	入学式救護・健康診断ガイダンス（学生）、定期健康診断（学生・教職員）
4月	健康診断再検査および事後措置
5月	健康診断再検査および事後措置（結果説明・結果配布）
6月	クラブ健康診断、オープンキャンパス救護
7月	クラブ健康診断事後措置、要観察者定期検査、オープンキャンパス救護
8月	オープンキャンパス救護、
9月	後援会救護、秋学期ガイダンス、オープンキャンパス救護
10月	要観察者定期検査、入学試験救護、オープンキャンパス救護、模擬店食品衛生指導
11月	建学祭救護、入学試験救護、インフルエンザ予防接種学内実施（教職員対象）
12月	入学試験救護、
2012年1月	入学試験救護
2月	入学試験救護
3月	卒業式救護、入学試験救護

定期健康診断

・学 生

実施項目

- | | |
|-------------------|-----------------|
| a. 身体計測（身長・体重・視力） | b. 胸部レントゲン撮影 |
| c. 血圧測定 | d. 尿検査（蛋白・潜血・糖） |
| e. 問 診 | f. 心電図（問診で指示者） |
| g. 内科診察 | |

受診状況（5月末まで：外部検診者含む）

	1 年			2 年			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
対象者（人）	28	59	87	27	73	100	55	132	187
受診者（人）	28	58	86	27	70	97	55	128	183
受診率	100.0%	98.3%	98.9%	100.0%	95.9%	97.0%	100.0%	97.0%	97.9%

・教職員

実施項目（35才未満）

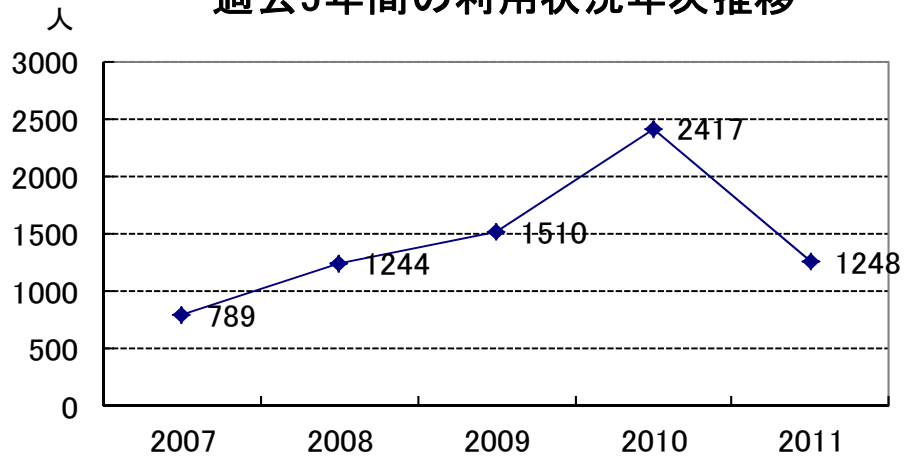
- | | | |
|-------------------------|--------------|---------|
| a. 身体測定（身長・体重・視力・腹囲） | b. 胸部レントゲン撮影 | c. 血圧測定 |
| d. 尿検査（蛋白・潜血・糖） | e. 問診 | f. 血液検査 |
| g. 内科診察 | | |
| （35才以上は上記 a～g および下記の項目） | | |
| h. 心電図 | i. 胃検診 | j. 大腸検診 |

受診状況

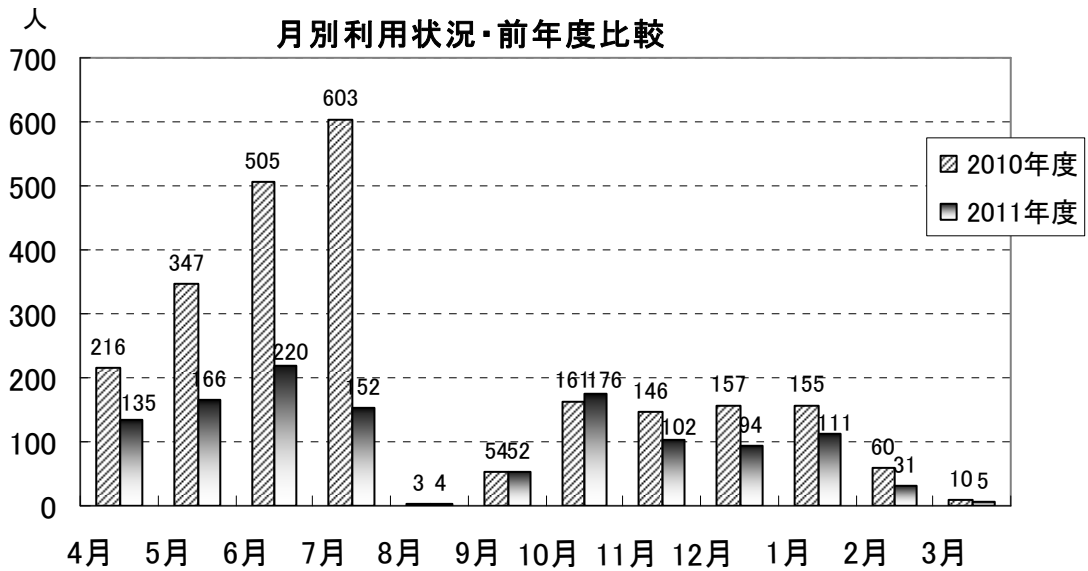
*非常勤講師6名含む

	教 員			職 員			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
対象者（人）	16	9	25	6	7	13	22	16	38
受診者（人）	16	9	25	6	7	13	22	16	38
受診率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

過去5年間の利用状況年次推移



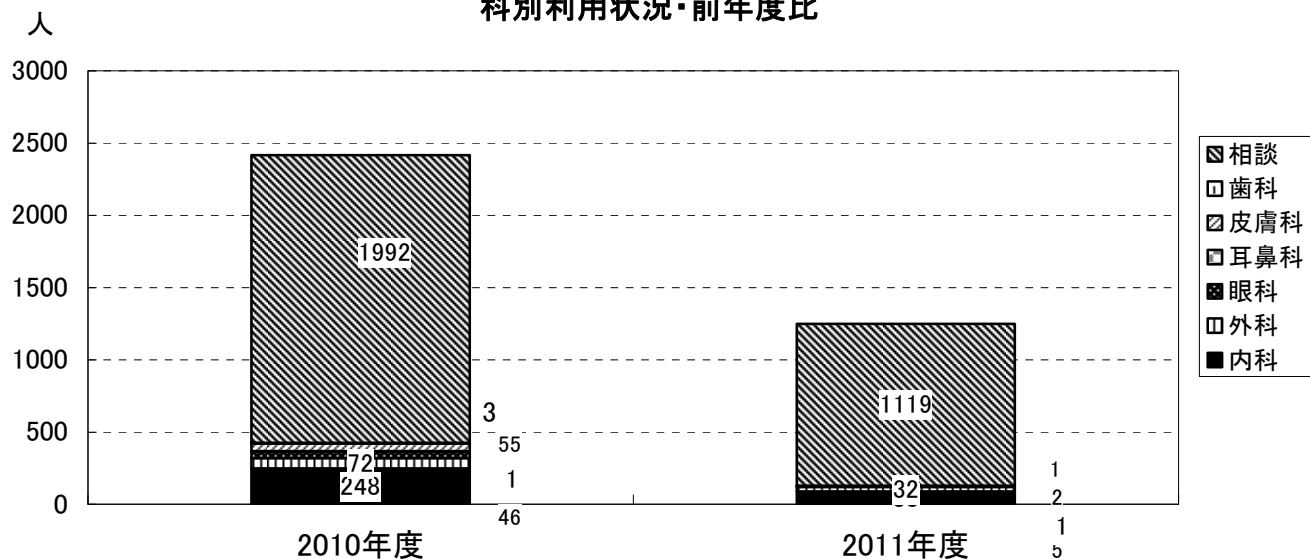
3) 利用状況



(2011.4.1~2012.3.31)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	学 生	8	5	17	10	0	2	11	11	11	9	1	0	85
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	学 生	5	4	3	9	1	0	2	2	3	2	0	0	31
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	学 生	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	5
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻科	学 生	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	学 生	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科	学 生	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	教職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相談	学 生	117	155	197	128	3	49	157	82	77	91	24	5	1085
	教職員	3	2	1	1	0	0	4	5	1	3	0	0	20
	その他	2	0	1	1	0	0	2	0	0	4	4	0	14
合計	学 生	130	164	218	150	4	52	170	96	93	103	25	5	1210
	教職員	3	2	1	1	0	0	4	6	1	4	2	0	24
	その他	2	0	1	1	0	0	2	0	0	4	4	0	14

科別利用状況・前年度比



科別措置件数

科	病院搬送	病院紹介	応急処置	保健指導	その他	合計
外科	0	0	32	0	0	32
内科	0	2	55	5	26	88
眼科	0	0	3	1	1	5
耳鼻科	0	1	0	0	0	1
皮膚科	0	0	1	1	0	2
歯科	0	0	0	0	1	1
相談業務	0	3	0	13	1103	1119
合計	0	6	91	20	1131	1248

4) 今後の課題

健康推進室の利用目的の多くは、友人が少なく居場所がない学生や、単位不足の学生、学生生活を営む上で何かしら不安や心細さを感じているような学生たちが、こころに抱えた不安や問題を吐き出す場所として利用するケースが多く見られる。学生たちの様子を見て感じるごととして、友人関係・家族関係などの人間関係でストレスを抱えていたり、些細な事をきっかけに学校に来なくなるというケースの学生も見られ、希薄な人間関係と共にストレスに対する向き合い方など、学生自身がどう対処していけばいいかわからず、疲弊し徐々に逃避する傾向が強くなっているように思う。そういう学生に対し、健康推進室として、一人で不安や悩みを抱えず誰にも相談できずにいる場合は、気軽に訪ねてほしいというアナウンスを行っている。メンタルヘルスの問題を抱える学生に対しては、過度な刺激を与えず慎重に接することや温かな雰囲気迎え入れるよう雰囲気づくりに努めている。今後の課題として、引き続きメンタルヘルスの重要性を認識し、学校全体にそのことを周知していくことが大切である。また心理的な問題で、授業に出れなくなったり学校を休みがちになっている学生への就学支援をどのように取り組んでいくか、専門機関との連携も含め今後は学校全体で協議していく必要があるのではないかと思う。

(8) 学生相談室

1) 概要

学生相談室（前年度までのカウンセリングルーム）の役割は、学生の悩みの相談や、将来設計の手伝いをして学生生活を豊かなものにするところにある。必要に応じて、心理面接、各種心理検査や適性検査も行なっている。相談業務を担当するカウンセラーは1名で、非常勤として学外から週1回来校している。相談時間は、水曜日の10時30分より17時00分までとなっている。

学生相談室は健康推進室と同じセクションにまとめられていて、連携して学生の心身の健康維持に対処する体制がとられている。相談業務を担当するカウンセラーが非常勤の限られた勤務形態をとっているため、健康推進室で学生の動向を注意し、継続的なケアを行なっている。また一方で、身体的な訴えの裏に精神的な問題が潜んでいるケースの場合には、カウンセリングを薦め、カウンセラーが対処している。

相談の申し込みの手続きは、相談を希望する学生が学生相談室に直接出向いてくるか、または健康推進室に予約を申し込むシステムになっている。予約は直接申し込むことを原則としているが、電話、メールのいずれでも受け付けている。これらの手続きや相談日は、学生便覧に記載すると同時に学生相談室の案内ビラにも書いて知らせている。また後援会資料にも案内が載せてあり、案内を見た保護者からの電話による相談も受け付けている。

本年度、学生相談室の場所を校舎1階の健康推進室近くに移動した。また、名称をカウンセリングルームから学生相談室に改称した。これは、「カウンセリング」という名称が学生を身構えさせる心配があり、全国的に使われている「学生相談」という名称のほうが学生も利用しやすいと考えられるためである。場所については、以前は校舎2階の端に位置しており、学生には分かりづらく健康推進室から付き添って移動するためには同室を長く開ける必要があった。今回の部屋の移動で健康推進室を利用している学生をスムーズに学生相談室につなぐことが出来るようになった。そして、校舎1階は比較的人通りが少ないため、来談者のプライバシーも保護されやすい。学生相談室専用の掲示板は廊下の目立つ位置に置かれていて、自然な状況で掲示板を見ることができるようになっている。

現在のところ、学生相談室は面接室を兼ねる1室のみであるため、ドアの外に「面接中」の札を垂ら

して後から来る人に知らせている。またドアのすぐ内側に衝立てを立てて、中の人と後から訪ねて来た人とが不意に顔を合わせることをないように工夫している。来談者がいないときには、「在室」と書いてある面を見せるようにしている。なおカウンセラーが来校していない時や緊急時には健康推進室へ連絡してもらうようにしている。実際に学生相談室を利用しようとしている学生の中には、他人の目を気にする人もいて、気軽に利用してもらうために十分な配慮が必要とされる。

2) 活動状況

a 心理検査

希望する学生を対象に、心理検査を実施している。備え付けの検査は以下の通りである。

性格検査	ストレス・チェック検査	その他の検査
・ Y-G 性格検査	・ STAI	・ SDS 職業適性自己診断テスト
・ クレペリン検査	・ CMI 健康調査表	
・ TAT	・ SDS	
・ 東大式エゴグラム (TEG)・CES-D		
・ MMPI	・ MAS	
・ ロールシャッハ		
・ PF スタディ		

このうちよく使用する検査は、東大式エゴグラム (TEG) で、これは交流分析の理論を元に5つの因子で形作られるパターンによって自我状態をとらえる質問紙テストである。60項目の簡単な質問に答えて得られるエゴグラムパターンを基に自画像の把握がしやすい。性格診断としてだけでなく、自己分析をしたり、行動パターンの修正・改善の指針も得られるように工夫してある。

b 心理面接

心理検査や性格検査に関する面接の他に、継続的な面接による心理的サポートも行なっている。この心理面接で扱った主な内容は、編入学、職業適性、対人関係での悩み、自分の性格について等であった。大学編入学に関する相談は近年多くみられるものである。対応としては、本人の希望や適性、興味関心の方向をはっきりする作業を続けて、気持ちをしっかりと意識化させ、自信を持って選考に望めるように支援していく。また希望する大学の専門内容に関する情報を集めたり、履修の仕方をいっしょに考え、実現へ向けて努力を具体化する支援をしている。

c 本による啓蒙

本による啓蒙活動が行なえるように、ここ数年かけて学生相談室に本を揃えることを心がけている。学生相談室の本棚に備えてある心理学関係の書としては、

- ・ 雑誌「こころの科学」約 140 冊、
- ・ 性格や人付き合いの本など約 80 冊
- ・ マンガなど心理学の読み物 24 冊、
- ・ 留学・編入学関係雑誌 5 冊

等が用意されている。

まだ蔵書数は多くないが、興味を覚えた学生には貸し出している。学生の活字に対する親和性には個人差が大きく、本を借りていく学生の数は多くない。

d 広報活動

広報活動では、相談活動が特別なことではなく日常のものであるという認識を育てていくことが重要と考え努力している。本学での具体的な働きかけとして、今まで入学時や秋学期のガイダンスで学生相談室の存在をアピールしてきたが、今年度より4月の春学期オリエンテーションの中でカウンセラー自身が学生相談室の紹介をする時間を設けた。また、学生便覧に学生相談室の案内を載せたり、学生相談室便りを掲示したりゼミの先生に配布したり、カウンセラーが面接の空き時間を利用して健康推進室に赴き、健康推進室に来た学生と接して自然な形で学生と接し、認知度を上げたり来談動機を高めるきっかけ作りをしている。

3) 利用状況

平成 23 年度の来談件数は延べ 32 件であった。相談件数は昨年度と大きく変わらない。月別来談件数

は表1に示してあるように、例年とは異なり5、6月にピークが見られた。当年度から4月の健康診断で心理的な項目にチェックをした学生に対し、呼び出し確認を行うこととしたため、5、6月にピークとなった。心理的な項目にチェックした学生は学生なりのSOSを出しているといえ、必要に応じて継続面接につなげるよう促している。また、秋には緊急対応を行った。

1年間の相談件数を相談内容別にみると、表2で示しているように継続来談者の精神的健康のサポートがもっとも多く、その次に対人関係の相談が多かった。近年、青年期のメンタルヘルスで注目される対人恐怖症、発達障害、人格障害などに悩まされる学生が本校でも増えてきた印象である。その学生への集団内の適応、コミュニケーション能力の向上、ストレスに対するセルフ・コントロールなどを試み、援助してきた。次に多かった相談内容としては性格があげられ、心理テストを通して自己理解を深める作業やよりよい方向へと自分の考え方や行動パターンを変えていくこともある。進路に関しては、今年度はそれを主訴する学生はいなかったが、話題の中で就職に関する不安を語る学生が多くいた。

相談形態別では、表3に示すようにすべての相談は基本的に個人面接であり、心理検査の枠で東大式エゴグラム（TEG）を行ったのが3件であった。電話相談やネットによるメール相談も必要に応じ、対応できるようにしているが、その利用はなかった。

来談者の内訳を性別でみると、32件のうち、男子8件、女子24件で、昨年度よりも男子の割合が少ない。健康診断で心理的項目にチェックをした学生の多くが女子であり、それがそのまま件数に反映されている。

心理検査は学生の希望により実施することが多く、その結果は学生へフィードバックすることで、学生の自己理解、自己受容の資料として使われている。ただしその際、将来、問題を抱えた場合、学生相談を活用できるよう、簡単なオリエンテーションを行い、速やかな危機介入ができる体制作りを努めている。

4) 今後の課題

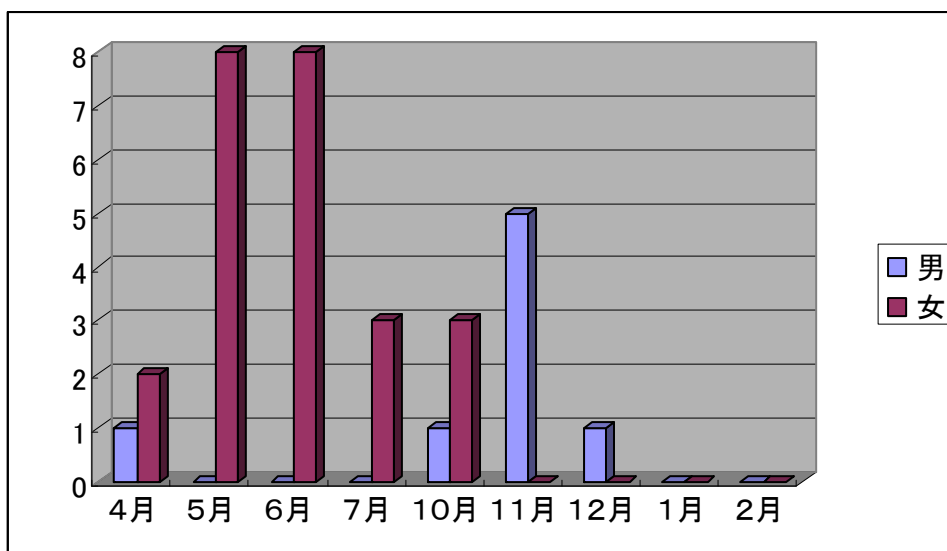
学生相談室は健康推進室と連携し、学生の心身の健康維持に対処するとしている。非常勤カウンセラー不在中は健康推進室で学生の動向を把握し、日常的なケアを行なっている。しかし、週1日のカウンセラーの来校する時間を有効に活用するためには、学生相談室と健康推進室の緊密な連携や情報交換が欠かせないものである。前年度までは、それぞれの場所がかなり離れており、カウンセラー来校の日でも予約来談者以外の学生の動向はなかなか把握しにくかったが、今年度より隣接とはいかなかったものの近くの部屋を確保することが出来た。このためカウンセラーの在室日に健康推進室を利用した学生を学生相談室につなぐ等、連携をかなりスムーズに行えるようになった。また、面接のない時間帯にカウンセラーが健康推進室に顔を出しやすくなり、学生相談室への来談動機を高めるきっかけ作りをすることも出来るようになってきた。

また、今年度より健康診断の心理的な項目にチェックした学生を呼び出すこと始めた。心理的問題を持つ学生を早期に発見し相談につなげる試みである。しかし、利用状況に記載したように男子学生よりも女子学生の方が心理的な気がかりを自らチェックする傾向にあると思われる。今後、心理的問題を抱えるが健康診断ではチェックをしていない学生、特に男子学生へのアプローチが課題である。このためには各ゼミの教員との連携を図る必要がある。

今年度は、1月にカウンセラーが教職員研修を行い、教職員への心理学的知識の提供と共に、教職員にもカウンセラーの認知度を高めることが多少なりとも出来たと思われる。折に触れ、カウンセラーが教職員と接する機会を増やし、気がかりな学生について教職員と健康推進室・学生相談室が連携していく基礎を作って行きたい。

2011年度来談者の月別延べ人数

	4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	1月	2月
男	1	0	0	0	1	5	1	0	0
女	2	8	8	3	3	0	0	0	0



2011年度来談者の月別延べ人数

2011年度相談内容別の来談件数（重複可）

相談内容	適性	性格	健康	進路	学業	対人関係	その他	合計
件数	0	5	16	0	0	8	3	32

2011年度相談形態別延べ人数（重複可）

相談内容	心理面接			心理検査			合計
	個人面接	電話相談	代理相談	TEG	Y-G 性格検査	CMI 健康検査	
件数	28	0	1	3	0	0	32

（9）学生生活支援に関する現状と今後の課題

2011年度より、未成年者が多数を占めることと、社会情勢に照らし合わせて敷地内完全禁煙を実施している。一部のベランダや部室近辺、グラウンド周辺で年間を通じて吸殻が見受けられるなど、改善すべき問題点については多々残されている。学則で厳しい対応をしていくことは簡単であるが、教育的指導の中でどこまで対応していけるかは急務の課題である。また、学生相談については、2010年度よりメールによる相談受付など、健康推進室との連携を図りながら運用したが、メールによる相談はなく、健康推進室に集中している状況が続いている。年々、心の病や不安を抱える学生の比率が高まってきており、益々健康推進室の負担が大きくなってきている。指導教員も含めた支援システムの構築が急がれる状況にある。経済的に厳しい状況を抱えた学生の比率も増加してきており、学費納金制度や奨学金制度の見直しなども検討の必要に迫られている。以前から問題点としてあげられていた、学生の談話場所については、秋学期より学生ラウンジを開設し、ソファの設置などを行い、より快適な学生生活の支援を行っている。今後は、遊具やテレビ、PCの設置など、更なる支援を行っていく予定である。

4. 進路の支援

（1）進路支援のための組織体制について

本学では、学生の進路決定に向けた支援活動全体を統括する組織として進路委員会を設けている。2011年度の進路委員会は7名の委員で構成され、その内訳は国際文化学科教員3名、情報処理科教員

2名、事務職員2名である。

進路委員会及び同委員が担う主な役割としては、以下のものがある。

1. 本学における進路指導方針（就職・編入）の検討・策定
2. 進路指導に関わる組織・部署・科目担当教員等との連携を含む、進路支援活動全体の統括
3. 進路対策科目（進路対策Ⅰ～Ⅳ）・進路対策講座・進路説明会・企業実習等の企画立案と実施
4. 学生に対する個別の進路指導（進路相談、進路の斡旋、書類作成指導、面接指導など）
5. 推薦による就職・大学編入希望者に対する選考プロセスの統括
6. 企業・大学の受け入れ状況や社会情勢等、進路全般に関する情報収集と分析
7. 企業・大学への訪問活動を中心とした進路先との関係構築
8. 保護者を対象とした進路相談会の企画と実施
9. その他、進路についての支援全般

また、本学では2011年度7月より、学生生活全般における支援活動を全般的に担う部署として、旧・進路室や事務室学生係等の機能を集約した学生支援室を設置している。学生支援室の一機能として、進路委員の教職員が常駐し、主に企業からの求人や大学編入などの情報の公開、就職の斡旋、就職相談と指導、学生の進路動向調査、学生情報（進路登録カード、進路アンケート調査、受験報告など）の保管といった支援業務を行っている。

なお、学生の就職活動状況やその結果（内定・合格等）、学生支援室での指導内容等については、本学が運用する「学生カルテ（SRMS）」を通じて関係する教職員に配信され、教職員間における進路情報の迅速な共有化が図られている。

（2）学生支援室における就職情報等の提供について

学生支援室の役割は多岐にわたるが、中でも就職情報の収集と提供は最も大切な業務である。学生支援室では、短大に送付されてくる企業からの求人情報に加え、リクルートや福岡県学生職業センターで公開されている求人情報のほか、九州各県の様々な求人情報を収集し学生に提供している。こうした求人情報は、学生の閲覧用としてプリントしたものを、各ファイルにまとめて学生支援室に設置し公開している（複写は無料となっている）。中でも、特に重要度の高い求人情報については、学内 Web サイトに求人票受付情報を随時公開し、希望する学生には、携帯電話のメール機能による求人情報の配信サービスも行っている。

また、企業情報については、学生支援室の書棚に約400社の企業を業種別にファイルにまとめて公開している。過去、学生が採用された企業のファイルには、年度別に色別のシールを貼り、会社の概要を記載したパンフレットとともに受験した学生の受験報告書（筆記試験や面接内容などが記載）を添付している。なお、個人情報の守秘義務により、学生名は削除して公開している。

そのほか、学生支援室では、就職説明会や採用情報に関する各種ポスターの掲示、各種就職情報誌、書籍（業界本、一般常識・SPI問題集など）を設置し、書籍の貸し出しサービスも行っている。一方、編入学を希望する学生に対しては、全国の主要4年制国公立大学および私立大学から送付されてきた編入受け入れ案内や推薦依頼をもとに、学生ポータルサイトの「編入情報」の項目に整理して掲示している。特に、当該年度に全国の大学から届いた新しい編入情報は、表示の色を変えて内容を更新しているほか、推薦の募集だけ抽出したデータも用意するなど、学生にとってわかりやすくなるよう工夫を行っている。学生支援室内においても、各大学の募集要項や資料を公開しているほか、学生の希望に応じて、受験用資料や応募書類を学生支援室が大学から取り寄せている。

（3）進路支援の内容について

1）就職支援

学生の職業観の確立とともに、幅広い基礎学力を身につけることにより「将来の人生設計は自分で考えることができる能力」と「目標達成に向け忍耐強く行動できる実践力」を、短大2年間の正規科目「進路対策Ⅰ～Ⅳ」で養成している。具体的内容としては就職状況や雇用環境などの理解、小論文や作文の書き方、一般常識などの基本知識習得、活動のための情報収集法、履歴書・志望動機などの書類作成支援などである。

「進路対策Ⅰ～Ⅳ」以外においては、各学科のカリキュラムの中で就職に有利となる資格取得に関す

る支援を行う一方、授業だけでは補えない分野であり、かつ、特に受験者が多い検定試験等に対しては、補助教育講座を開講している。なお、補助教育講座に関する詳細は領域 IV 第 4 節に記載している。

2) 編入学・留学支援

就職支援と同様、四年制大学への編入学を初め、専門学校や海外の大学（留学）も含めた進学全般に対する指導と支援については、進路委員会及び学生支援室が統括しており、特に、大学編入学の実質的な支援に関しては、進路対策科目として開講されている「進路対策 I～IV」（編入コース）において行われている。本科目の編入コースでは、国公立大学編入クラス、東海大学及びその他の私大編入クラスの 2 つのクラスが設けられ、科目担当の教員による、大学研究、目的意識の醸成、書類作成、学科試験対策、小論文対策、面接指導などといった大学編入に必要な様々な指導がされている。また、各学生が希望する進路に応じて、各専門の教員が自主的に開講している勉強会（英語・数学・物理・会計等）に誘導し、主体的な学習意識の向上を図っている。さらに、進路委員及びゼミの指導教員が、ゼミやオフィスアワーの時間を利用して学生個別の指導にあたっている。

次に、専門学校への進学について、職業訓練を目的とした実用性の高い専門学校を志望する学生に対しては「進路対策」の就職コースの中で、他方、学力補充を必要とする専門性の高い専門学校を志望する学生に対しては「進路対策」の編入コースの中において、進学先の検討や進学後に向けた準備等について指導を行っている。

在学中の学生の海外留学については、本学と提携している海外の大学への留学のすべてを国際交流委員会が統括し、募集説明会の実施、参加者の選考、奨学金の提供、事前研修、引率などの支援を行っている。一方、卒業後の進路として留学を希望する学生に対しては、進路委員会及び学生支援室が窓口となって、学内の外国人教員や留学経験の豊富な日本人の教員との協力のもと、海外留学へのアドバイスや個別の指導を行っている。

なお、学生支援室では、四年制大学の編入情報の公開、編入学募集要項、受験記録の保管、書類の発送などの支援業務を行っている。

(4) 企業実習

1) 概要

国際化の進展、高度情報社会の到来など、社会情勢の変化にともない、企業の雇用環境が大きく変わりつつあるなかで、学生の進路選択の指針として、企業における就業体験の重要性が従来以上に注目されている。本学では、社会と連動した実践的な教育という視点から 1999 年度からインターンシップ（企業実習）を実施しており、2011 年度については 1 年生を対象に、春期休暇期間中（2 月から 3 月）に実施した。

2011 年度は、企業実習希望者のうち、面接により受け入れ企業の実習内容等を説明、実習の目的意識などを総合的に判定し、国際文化学科 7 名、情報処理科 3 名を選考し、2012 年 2 月から 3 月の 2 週間程度の期間、学生の希望に応じ、福岡県内の 7 事業所で実習を行った。受け入れ企業側にも、事前折衝を綿密に行うことで、企業実習の意義をよりいっそう理解していただいた結果、従来以上に充実した指導体制や実習プログラムで企業実習を実施することができた。また、企業実習後の学生のレポートでも、企業実習の意義は高く評価されている。

履修した学生から提出された企業実習報告書や研修報告会では企業で働くことの厳しさ、企業人としての自覚、社会人として責任の重さを認識したことや自己の職業適性や将来設計について主体的に考える機会となったこと等が報告された。また、実習生に対する企業側の評価も「真面目に仕事に取り組む」、「積極性がある」、「今後も実習生を受け入れたい」など概ね良好であった。次年度も企業実習については本学の正規のカリキュラムに組み込み、キャリア教育として、学生が実習してみたい企業や事業所を開拓し、さらに充実した内容にする予定である。

2) 実施状況

両学科とも専門科目「企業実習」として 2 セメスター集中として開講した。企業等での実習や研修的就業体験を通して、「職業とは何か」や「自己実現と職業との関わり」等について認識を深めると共に、個人の自立に不可欠な職業観の確立を目指すことを目標とした。

具体的には、(1) 社会や企業に対する理解の促進 (2) 職業適性の確認と職業意識の確立 (3) 責任感や自立心の醸成 (4) 「どう生きるか」について真摯に思考することなどが目標として挙げられる。

履修は本学と協定した企業や団体等とし、企業担当者との実施期間、プログラム内容など基本的な事項について協議した実施要領に基づき、事前研修として企業実習の目的のほか留意事項などの説明等、事後研修として企業からの評価書、企業実習報告書、体験発表などを学科委員で総合的に評価し2単位を認定する。

2011 年度企業実習先一覧

No	企業実習先	実施期間(いずれも 2012 年)	参加者所属学科
1	ツーリストエキスパーツ	2月13日(月)～2月24日(金)	国際文化学科
2	ニッカ航空サービス	2月20日(月)～3月2日(金)	
3	博多都ホテル	2月13日(月)～2月24日(金)	
4	ホテルクラウンパレス北九州	2月13日(月)～2月24日(金)	
5	広告社	2月13日(月)～2月24日(金)	情報処理学科
6	摩利支病院	2月13日(月)～2月24日(金)	
7	第五高等学校	2月20日(月)～3月2日(金)	

3) 今後の課題

企業実習については、参加側の学生の意識向上および受入先企業の理解が広がり、一定の成果をおさめている。しかし、近年になって、企業実習参加者の減少が目立っており、インターンシップのあり方を考え直す時期に来ていることが指摘される。学生がインターンシップを敬遠する背景に、業種によって学生の期待と実際の実習との間に大きな乖離があることや、また、積極的にインターンシップに取り組んでいる企業が少数にとどまり、希望業種で実習できないことなどがあげられる。企業実習先の開拓及び事前教育の徹底、受入側企業との密接な連携が課題となっている。

また、本学の企業実習では、学生の希望に応じて、受入側の企業と折衝をすることにより、学生の希望に応じた実習を可能にしているが、企業実習が一部企業に集中したり、年度ごとの希望業種の変化が大きく、受入が難しいケースが増加している。また、その一方で卒業後の就業体験という当初の目的を離れ、単位取得の目的で、希望の業種ではなく人気のある分野の企業をとりあえず申し込んでみるという学生も多く、企業実習のあり方を再検討することが必要になっている。

(5) 進路決定状況

情報処理学科 (過去3カ年)

(2012年3月31日現在)

区分		2009 年度		2010 年度		2011 年度	
a	卒業生数	60 人		41 人		32 人	
b	就職希望者数	b/a	36 人 (60%)	22 人 (54%)	20 人 (62%)		
c	うち学校で斡旋した就職者数	c/b	4 人 (11%)	4 人 (18%)	9 人 (45%)		
d	うち自己開拓分の就職者数	d/b	19 人 (53%)	15 人 (68%)	7 人 (35%)		
e	うち就職未定者	e/b	13 人 (36%)	3 人 (14%)	4 人 (20%)		
f	進学・留学希望者数	f/a	13 人 (22%)	11 人 (27%)	8 人 (25%)		
g	うち進学・留学決定者数	g/f	11 人 (85%)	11 人 (100%)	7 人 (87%)		
h	うち進学・留学先未決定者数	h/f	2 人 (15%)	0 人 (0%)	1 人 (13%)		
i	そのほか	i/a	11 人 (18%)	8 人 (20%)	4 人 (13%)		

国際文化学科（過去3カ年）

（2012年3月31日現在）

区分		2009年度	2010年度	2011年度
a	卒業生数	66人	56人	59人
b	就職希望者数	50人 (76%)	36人 (64%)	30人 (51%)
c	うち学校で斡旋した就職者数	15人 (30%)	5人 (14%)	7人 (23%)
d	うち自己開拓分の就職者数	13人 (26%)	23人 (64%)	19人 (64%)
e	うち就職未定者	22人 (44%)	8人 (5%)	4人 (13%)
f	進学・留学希望者数	12人 (18%)	10人 (18%)	21人 (35%)
g	うち進学・留学決定者数	11人 (92%)	8人 (80%)	18人 (86%)
h	うち進学・留学先未決定者数	1人 (8%)	2人 (20%)	3人 (14%)
i	そのほか	4人 (6%)	10人 (18%)	8人 (14%)

※ 卒業生数は、各年度に卒業した学生数を示す（過年度卒業・秋学期卒業を含む）

2011年度 就職先（業種別）

業種分類	情報処理	構成比	前年比	国際文化	構成比	前年比
建設業	0	0%	-5%	0	0%	±0%
製造業	4	25%	+4%	0	0%	-11%
電気・ガス・熱供給・水道業	1	6%	+6%	0	0%	±0%
情報処理業	0	0%	±0%	0	0%	±0%
運輸・倉庫業、郵便業	2	13%	+13%	2	8%	-3%
卸売業、小売業	4	25%	+20%	4	15%	-28%
金融業、保険業	0	0%	-11%	0	0%	±0%
不動産業、物品賃貸業	0	0%	-11%	1	4%	+4%
学術研究、専門・技術サービス業	0	0%	-5%	0	0%	±0%
宿泊業、飲食サービス業	0	0%	±0%	0	0%	-3.5%
生活関連サービス業、娯楽業	1	6%	-5%	11	42%	+28%
教育、学習支援業	0	0%	±0%	1	4%	+0.5%
医療、福祉	1	6%	-20%	3	11%	+4%
複合サービス事業（JA）	0	0%	±0%	2	8%	+8%
その他のサービス業	3	0%	+19%	2	8%	+1%
公務	0	19%	±0%	0	0%	±0%
計	16	100%		26	100%	

2011年度 就職先（職種別）

職種分類	情報処理	構成比	前年比	国際文化	構成比	前年比
情報処理技術者	0	0%	±0%	0	0%	±0%
保険医療従事者	1	6.2%	-4.3%	3	11%	+7%
事務	11	68.8%	+5.8%	8	31%	+17%
販売	2	12.5%	+7%	5	19%	-17%
その他のサービス	2	12.5%	+2%	9	35%	-4%
保安	0	0%	±0%	1	4%	+4%
生産工程労務作業	0	0%	-10.5%	0	0%	-7%
計	16	100%		26	100%	

編入実績表（過去3カ年）

	2009年度		2010年度		2011年度	
	情報処理	国際文化	情報処理	国際文化	情報処理	国際文化
国公立大学	1	4	0	1	2	2
東海大学（学园内編入）	9	9	9	3	3	4
他の私立大学	6	8	0	2	2	5
小計	16	21	9	6	7	11
合計	22名		15名		18名	

編入実績表（2011年度詳細内訳）

人数	進学状況	学部名	学科名	11年度実績	
				情報処理学科	国際文化学科
学园内編入 7名	東海大学	教養学部	人間環境学科社会環境課程		2
		体育学部	生涯スポーツ学科		1
		総合経営学部	マネジメント学科	3	1
他大学編入 11名	九州工業大学	情報工学部	知能情報工学科	1	
	佐賀大学	文化教育学部	人間環境課程 生活・環境・技術選修		2
	山口県立大学	社会福祉学部	社会福祉学科	1	
	久留米大学	商学部	商学科	1	
		文学部	国際文化学科		1
	中村学園大学	流通科学部	流通科学科		1
	九州産業大学	国際文化学部	国際文化学科		1
	九州国際大学	経済学部	経営学科	1	
		国際関係学部	国際関係学科		1
	横浜商科大学	商学部	貿易・観光学科		1

※人数は合格者延べ人数を示している

（6）進路指導全般に関する現状と今後の課題

就職に関しては、欧州金融危機や円高不況に加え、東日本大震災という未曾有の国難が生じたこともあって、特に年度初頭にあつては極めて厳しい就職戦線となった。実際、短大に送られてくる企業の求人は年々減少傾向にあるほか、その数少ない求人に対して四年制大学出身者とも競合しており、企業側としても採用の厳選傾向を強めているという、本学学生にとって相当に過酷な情勢にある。今年度は、短大に送られてくる求人票に限らず、リクナビ、マイナビ、学生職業センター、ハローワークといったインターネットの就職情報サイトを中心に、求人情報誌、新聞の折り込みチラシなどあらゆる就職情報の媒体を活用しながら、就職支援を行ってきた。その甲斐もあって、最終的な就職決定率としては、昨年度からさらに改善が見られたものの、国内外の経済状況を考えると来年度以降も厳しい就職状況が続くことが予想される。この現状を打開するためにも、教職員側からのややもすれば一方的になりがちな指導指導だけに頼ること無く、学生個々の状況に対応しながら、学生の主体的な活動を促すための方策を矢継ぎ早に打ち出していく必要がある。方向性としては、後援会・同窓会（OB/OG）との協力関係を基軸に、より身近な実務社会の姿を体感する機会を創りあげていくことを検討している。

進学、特に四年制大学への編入に関しては、昨今大学側が積極的に編入を受け入れている現状もあり、

今年度も編入学決定率 100%を達成することが出来た。しかしながら、近年、大学編入に関する目的意識の希薄な学生や、編入学先での学修・研究内容と志望動機にミスマッチを生じさせている学生の増加傾向があり、こうした進学を安易に考えている学生へのしっかりとした指導を実現することが必要だと考える。具体的には、志望分野と関連の深い科目への学習活動をこれまで以上に促進することによって、大学編入試験に合格することだけを目指るのではなく、編入後、さらに実力を伸ばしていけるだけの素地を高めることを学生に求めていきたい。これらの活動によって、編入学決定率だけでなく、編入学そのものの質（編入学先や学生満足度）についても向上を図ることが出来ると考えている。

今後の課題として、慢性的な進路指導を担う人的資源不足の解消が挙げられる。特に、ゼミ指導教員との連携関係をより密にし、より多くの教職員が学生個々の進路指導に関わる体制を強化していく必要性を感じている。

5. 多様な学生に対する支援

多様な学生の受け入れ状況

種別	2009 年度	2010 年度	2011 年度	計
留学生（人）	2（0）	3（0）	4（1）	9（1）
社会人（人）	1（0）	1（0）	2（0）	4（0）
帰国子女（人）	0	0	0	0
障害者（人）	0	0	0	0
科目等履修生（人）	7	7	12	26

※カッコ内の数値は当該年度秋学期入学生 ※科目等履修生は春・秋の延べ人数

基本的に、すべての学生への指導や支援は、担当する指導教員を中心に行われる。しかし、特に留学生等の指導に関しては、指導教員個人では対応できる範囲を超えているので、語学担当のネイティブの教員、また特に生活指導に関しては、教学委員会及び担当の事務職員が加わって、集団指導体制で行っている。

6. 特記事項

（1）学生カルテ

本学では、1999年より学生カルテ（Student Relationship Management System / SRMS）を自己開発・運用している。

1) 学生カルテの目的と開発

本学では、学生の夢と希望をかなえるため、教職員全員での指導体制をとっている。従来の「指導教員のみが指導にあたる」から「部署や業務分掌を超えての指導を行う」に体制を変化させてきた。ここで重要なのは、短期大学は在籍期間が2年間と短いため、的確な指導をリアルタイムに行う必要があることである。その実現には、全学的な規模での情報共有が不可欠であり、その情報共有をサポートするシステムが求められる。そのような中で学生カルテシステムが誕生した。

今日では学生カルテシステムを本学の教育システムの中核とし、学生の生活面から学修指導、進路指導まで幅広く全学的に活用している。その活用の中で、学生を的確に指導できるかのポイントは、システムの存在そのものよりも、それに蓄積される情報の数と有効性・リアルタイム性、さらにその情報がいかに活用されるかという点にある。すなわち、システムとその運用スタイルの両立が重要である。

学生カルテは3つに大別して学生情報を管理している。一つ目は学生の学修情報である。学修情報はさらに教科別に管理されており、受講状況、出席状況、学修の進行状況などを記録する。また、eラーニングによる開講科目については、メンタリングやその他の学習指導状況などの記録を義務付けている。二つ目は進路情報である。学生の進路希望や指導内容、及び学生個々の就職・進学活動の履歴などを記

録している。三つ目は生活情報である。先の2つに分類されない情報をここに記録する。例えば、資格取得情報、サークル活動、そのほかイベント等への参加状況など様々である。また、オープンキャンパスや進学相談会などで入学前の学生（生徒）と接する機会も多く、このときの面談状況も学生カルテに記録している。入学の時点において、学生のある程度の情報を得ることにより、学生の将来目標に向けた適切なゼミナールに配属するための措置である。

また、一般的に学生カルテと呼ばれるものは、学生の成績が記録されている場合もあるが、本学の学生カルテには最終成績（評価）は殆ど記録されていない。なぜなら成績は結果であり、その結果を得た後での指導では遅すぎるからである。あくまでも我々が重要と考えるのは、その結果になるまでの途中経過をリアルタイムに知ることであり、その途中の段階で指導を行う必要があるからである。このような観点から、学生カルテに記録する上記3つの項目はすべてテキスト形式となっており、記録者の主観を書き込むようになっている。

2) 学生カルテ運用の効果

学生カルテ運用の最大の効果は、学生の学修状況・生活状況の把握が容易かつ広範囲になったことである。この活用により、その学生が履修している科目全体にわたり学修状況が把握できる。従来は教員間の個人的なつながりによってのみ成立していた学生情報の共有が、大学の教育システムとして組み込まれたことにより、指導を要する学生の早期発見が容易になった。

学生カルテによりどの学生が、どの教職員からどんな指導を受けているのかが把握できるようになり、教職員間で共通認識のもとでの学生指導ができる。学生も、教員間の指導の違いによる困惑がなくなる。これにより、学生から教員・大学への信頼度向上が期待できる。

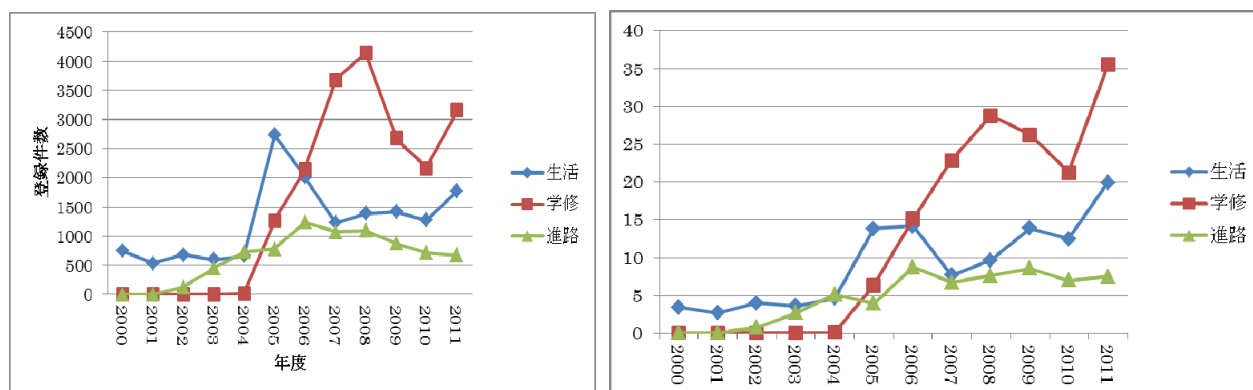
年に1・2回実施される保護者との懇談会でも、学生カルテの情報を参照しながら行うことにより、的確に行えるようになる。特に、県外で実施される懇談会では、指導教員が参加するとは限らず、このようなケースでも学生カルテが有効に活用されている。同様に、日常的に、保護者からの問い合わせに対応できるようになる。さらに、保護者からの信頼度向上も期待できる。

3) 運用実績

2011年度の学生カルテの利用実績は、次のとおりである。

適用	情報処理学科	国際文化学科
生活情報	1001	129
学習履歴	1978	158
進路指導履歴	525	116

SRMS 運用開始後から 2011 年度末までの登録情報数の推移を示す。2005 年以降「生活」に関する情報数が減少しているのは、2005 年に新規に「学習」のカテゴリーを新設し、従来「生活」に登録していた情報が「学習」に記録されるようになったためである。下記のように学生一人あたりの登録情報数が年々増加している。



学生カルテ 情報登録数の推移
左：登録総数 右：学生一人あたりの登録数

(2) 成績不良者への支援

本学では、入学時より少人数でのゼミ制度をとっている。指導教員は、学生一人ひとりの学修面・生活面を把握し、1年次は「フレッシュマンゼミナール」、2年次は「総合ゼミナール」の時間等を利用して指導にあたる。成績不良者や欠席が目立つ学生に対しては、その原因を探り、科目担当教員や健康推進室と連携を取り、学科会議での報告などで出席状況の改善を図っている。度重なる指導にも応じない場合は、単位不足とならないよう保護者も交えて指導することもある。成績不良者のなかには、留学生など経済面での支援の必要がある学生や、生活面で改善努力を必要とする学生、さらには心身面で問題のある学生など、その要因については学生個々により違うため、今後もより一層指導教員と他部署、科目担当教員、健康推進室との連携が欠かせない状況である。

(3) 学生に対する表彰制度

本学では課外活動や資格取得などで、顕著な成績を残した学生を建学記念式典で表彰している。また、学位授与式では、在学中に成績・人物共に優秀な学生を総長賞・学長賞として表彰している。総長賞・学長賞表彰内容は次のとおり。

受賞項目	学科	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
東海大学 総長賞	情報処理学科	児玉 純	犬塚 千里	合屋 香織	沖永 南	平山 浩子
	国際文化学科	長友 愛	後潟 実可子	馬場 厚子	松本 彩香	大東 美穂
東海大学 福岡短期大学 学長賞	情報処理学科	石川 唯	谷川 祐子 下岡 幸恵	松浦 里佳	上原 みさき 阿部 哲哉	福元 菜央 大羽 麻季
	国際文化学科	久我 香織 安井章太郎 藤本 唯 上村 享平	木原 里奈 田中 恵	加藤 由紀 松本 昇平	吉川 愛 永野 叶絵 麻生 直人	水野 桜子 久富 漢子 笹渕 翔吾 西川 敬太

(4) 学生生活に関する学生の意見や要望の聴取（大学評価アンケート）

本学に対する満足度について、学生による「大学評価アンケート」を毎年度末に1回実施している。2011年度の集計結果は次のとおり。（その他、記述式の設問も有り）

2011年度 学生による大学評価アンケート集計結果

アンケート回収 134

学科別	情報処理科	54	国際文化学科	80
性別	女性	92	男性	42
学年別	1年	62	2年	71
出身学校別	公立高校	64	本学付属	27
	本学付属以外の私立	23	その他	20
入試種別	AO入試	19	一般入試	20
	推薦入試	49	給付奨学金入試	24
	付属推薦入試	18	その他	4
住居形態	自宅	73	自宅外	56
所属団体	学友会役員	9	クラブ・サークル参加	63
	その他行事委員	7	その他	51

※▼印部分は昨年度の数値より低い項目

	11平均	情報処理	国際文化	10平均
Q2. これまでの学生生活で次の点をどのくらい重視していますか				
①専門的な知識や技能を修得すること	3.91	3.96	3.88	3.83
②資格を取得すること	3.92	3.85	3.96	3.54
③交友関係を深めること	3.96	3.87	4.03	3.77
④教養・人格を高めること	3.97	3.91	4.01	3.71
⑤学業外の活動に取り組むこと	3.28	3.26	3.29	3.19

Q3. 上で取り上げた項目について、あなたが感じる達成度はどの程度ですか				
①専門的な知識や技能を修得すること	3.46	3.57	3.38	3.29
②資格を取得すること	3.14	3.09	3.18	2.94
③交友関係を深めること	3.81	3.76	3.85	3.68
④教養・人格を高めること	3.49	3.43	3.53	3.37
⑤学業外の活動に取り組むこと	3.06 ▼	2.91	3.16	3.08

Q4. 次の項目について、授業に対する満足度は総合的に考えてどの程度ですか				
①好きな勉強ができる	3.86	3.76	3.93	3.60
②専門的な知識や技能	3.71	3.85	3.62	3.44
③授業内容(カリキュラム)	3.80	4.30	3.46	3.31
④資格取得に役立つ	3.68	3.80	3.60	3.39
⑤実習室等の活用	3.81	4.09	3.63	3.67
⑥教え方	3.64	3.74	3.58	3.38
⑦教員の熱意	3.67	3.85	3.55	3.56

Q5. 次の項目について、学生生活についての満足度は総合的に考えてどうですか				
①学内の雰囲気	3.50	3.69	3.38	3.43
②学園行事(建学祭等)	3.53	3.59	3.48	3.23
③クラブ・サークル活動	3.36	3.34	3.38	3.10
④人間関係(友人)	3.81	3.89	3.76	3.75
⑤図書館職員	3.48	3.31	3.59	3.29
⑥事務室職員	3.74	3.78	3.72	3.72
⑦学生支援室職員	3.64 ▼	3.59	3.67	3.80
⑧健康推進室(カウンセリング)職員	3.84	3.93	3.78	3.74
⑨コンピュータ実習室	3.95	3.98	3.94	3.89
⑩指導教員	3.88	3.87	3.89	3.83

	11平均	情報処理	国際文化	10平均
Q6. 次の項目について、施設設備に対する満足度は総合的に考えてどの程度ですか				
①キャンパス	3.32	3.57	3.15	3.22
②大学周辺の環境	3.08	3.30	2.94	2.94
③食堂	3.17	3.26	3.11	3.06
④図書館	3.51	3.39	3.59	3.22
⑤視聴覚 他特別教室	3.32	3.24	3.38	3.14
⑥コンピュータ実習室	4.01	4.06	3.97	3.83
⑦コモンホール トレーニングルーム	3.57	3.49	3.62	3.44
⑧コモンホール アリーナ	3.52	3.40	3.59	3.48

Q7. 次の項目について、本学全般に対する満足度は総合的に考えてどうですか				
①交通の便	3.34 ▼	3.31	3.35	3.41
②教職員とのコミュニケーション	3.74 ▼	3.80	3.70	3.79
③OB・OGとの交流	3.04	3.13	2.97	2.94
④学費	2.74	2.87	2.65	2.71
⑤校風	3.14	3.19	3.10	2.97

Q8. 入学前と現在とを比較して、本学に対する期待は総合的にどうですか				
①本学に対する期待度	3.23	3.54	3.03	3.03

Q9. 講義・実習における1コマの授業時間について		11計	情報処理	国際文化	10計
①現行の授業時間(80分) で適当かどうか	適当	102	40	62	119
	短縮・回数増	8	4	4	10
	延長・回数減	19	7	12	21

Q10. 卒業後の進路について、どのように希望しているか		11計	情報処理	国際文化	10計
①正規の社員として就職		69	34	35	92
②契約・派遣などの社員として就職		6	3	3	6
③自営業・家業に就く		6	4	2	6
④四年制大学に編入・進学		30	9	21	30
⑤専門学校に進学		4	1	3	7
⑥その他		17	2	15	14